

本年度の教育充実計画

1 教育目標

- (1) 校訓 「明るく・正しく・たくましく」
- (2) 教育指針 「知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」
- (3) 教育目標 「社会的自立を目指し、未来に向かって主体的に生きる力の育成」
- (4) 目指す生徒像
 - ・主体的に学ぼうとする生徒
 - ・豊かな心と、たくましく健やかな体をもつ生徒
 - ・お互いを認め合い、共に高め合う生徒

2 重点課題

- (1) 生徒一人一人に応じた学習指導の推進
- (2) 豊かな心と社会性を育む道德教育・キャリア教育の充実
- (3) 生徒理解に基づいた指導体制の確立
- (4) 個性や特性に応じた特別支援教育の充実
- (5) 個々の状況に応じた不登校対策の推進
- (6) 安全・安心の学校づくりの推進
- (7) 教職員の資質向上と協働体制の推進
- (8) 家庭や地域から信頼され、地域とともにある学校づくりの推進

3 実践項目

- (1) 生徒一人一人に応じた学習指導の推進
 - ① 「確かな学力」の定着に向けて、授業改善・授業内容の質的向上を図る。
 - ② タブレット等、ICT機器の効果的活用や、指導方法を工夫し、基礎・基本の定着を図る。
 - ③ 必要に応じてTT・少人数授業を行い、個に応じた教育を充実する。
 - ④ 課題の出し方を工夫し、定期的な指導により家庭学習習慣の定着と充実を図る。
 - ⑤ 評価規準や評価方法を明確にし、指導方法の改善に取り組み、指導と評価の一体化を図る。
- (2) 豊かな心と社会性を育む道德教育・キャリア教育の充実
 - ① 生命尊重を基盤とし、自己実現を図る教育を推進する。
 - ② 道德科における教員の授業力の向上を図り、生徒の規範意識を醸成する。
 - ③ 南中の「あ・ひ・る」を継続し、道徳的実践力を高める活動を展開する。
 - ④ 体験活動を取り入れ、自尊感情を育み、キャリア教育の充実を図る。
 - ⑤ 生徒が主体的に取り組む学級会、委員会、生徒会活動の充実を図る。
- (3) 生徒理解に基づいた指導体制の確立
 - ① 「南中いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを許さない土壌づくりに努める。
 - ② 迅速な報告・連絡・相談の日常化を図り、学年を越えて全教員が関わる。
 - ③ 生徒理解を深め、心を結ぶ指導により子ども自身の自己指導能力を高める。
 - ④ 情報モラルを高め、情報によるトラブルを回避することができる能力を養う。
 - ⑤ 家庭、地域や関係機関と密な連携を図り、協力関係を構築する。
- (4) 個性や特性に応じた特別支援教育の充実
 - ① 日常の授業における教師の有効な指導方策を全体で共通理解し、工夫と改善を行う。
 - ② 特別支援教育コーディネーターを中心として、校内支援体制を整える。

- ③ 特別な支援を要する生徒への、短期・中長期の指導計画を策定し、指導の充実を図る。
- ④ インクルーシブ教育の啓発に努める。
- ⑤ 通級指導を充実させるため、必要に応じて体制の見直しを図る。

(5) 個々の状況に応じた不登校対策の推進

- ① 生徒・家庭の実態を把握し、「不登校への手立て」を講ずる。
- ② 不登校担当教員・SC・SSW・学校生活サポーターを中心とした支援システムを活用する。
- ③ 生徒間で相互理解できる「温かい集団づくり」を推進する。
- ④ 町の適応指導教室「ふれあいルーム」等、関係機関との連携を図る。

(6) 安全・安心の学校づくりの推進

- ① 安心して学校生活ができるよう、学校施設や校内環境の整備に努める。
- ② 登下校での安全指導や不審者などへの注意喚起と、関係機関との連携を図る。
- ③ 防災・減災の意識高揚を図り、避難訓練等の学校防災体制を充実させる。
- ④ 心肺蘇生法やAED等の救命処置についての研修を実施し、対応力の定着を図る。

(7) 教職員の資質向上と協働体制の推進

- ① 研修体制を整えると共に、教師間オープンスクールの実施に取り組み資質向上を図る。
- ② 専門性と実践的指導力の向上を目指し、研究と修養に努める。
- ③ 「特別の教科 道徳」の校内研修体制を充実させ、授業力の向上に取り組む。
- ④ 情報教育に関する実践的指導力の習得に努め、ICTの効果的な活用に取り組む。
- ⑤ 「チームとしての学校」の視点に立ち、すべての教職員が生徒に関わる体制を構築する。

(8) 家庭や地域から信頼され、地域とともにある学校づくりの推進

- ① あいさつ運動を展開し、活力と魅力に満ちた学校を創造する。
- ② 地域を愛し地域に貢献しようとする生徒の育成を図り、社会的自立に必要な能力を高める。
- ③ 通信やHP等による情報発信を行い、家庭や地域に開かれた学校づくりに努める。
- ④ 生徒によるボランティア活動を展開し、地域の中の学校づくりを目指す。
- ⑤ オープンスクールや講演会等を開催し、地域教育の核となる学校づくりに努める。

4 確かな学力向上のための具体的方策

(1) きめ細やかな指導で、自ら学び自ら考える力を醸成する。

- ① 授業の目標を明示した上で探究学習を推進し、授業の終わりに振り返りをさせる。
- ② 言語活動を意識的・効果的に取り入れた授業を展開し、思考力・判断力・表現力を培う。

(2) 一人一人の個性や能力に応じた教育を推進する。

- ① 一問一答式のみではなく、それぞれの考えを出せる場面設定をする。
- ② 課題解決学習を取り入れ、より主体的で発展的な学習に取り組ませる。

(3) 学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高める。

- ① 教材研究や授業の進め方に工夫を凝らし、学習意欲を喚起する。
- ② タブレット・ICTの活用等、授業形態に変化を持たせるとともに、体験学習を取り入れる。

(4) 学びの機会を充実させ、学ぶ習慣を身に付けさせる。

- ① 朝読書を通じて、本への興味付けを図るとともに、落ち着いた学習環境を整える。
- ② 適切な課題を与え、定期的な指導により家庭学習の習慣を定着させる。